



# 第12回商工会女性部全国大会inいばらき



## 女性部の代表者3300名が一堂に会す

「創ろう！科学の力で未来へのかけ橋を」TSUKUBAから」をスローガンに、第12回商工会女性部全国大会inいばらきが平成22年11月25日、つくば市で開催され、全国から女性部代表者3300名が参加した。

大会は来賓多数の臨席のもと、6ブロックからの代表者による主張発表大会、部員増強運動表彰、商工会女性部カード表彰、女性の創業等支援助成金の助成先発表等を行い、盛会裏に終了した。



### 末武栄子会女性連合会長あいさつ



組織化45年を迎える女性連は、商工会の内部組織として、地域社会を支える経済団体として自他ともに認める存在です。今後、商工会女性部に求められるものは、地域の自立、活性化に寄与すること。地域の特産を活用して産業振興を図り、コミュニティを強化するなど社会貢献であると確信します。

大会を通じ、魅力ある商工会、魅力あふれる地域づくりのため、さらなる精勤を図られることを期待します。

### 来賓祝辞

#### 徳増有治中小企業庁経営支援部長



中小企業憲章に、中小企業は社会の主役として地域社会、住民生活に貢献し、伝統文化の継承に重要な機能を果たすとともに、社会の安定をもたらす国の財産であるというくだりがございます。これを肝に銘じ、国を挙げて最大限支援してまいる所存です。

商工会女性部は、子育て支援、高齢者への宅配事業などに注力するなど大きな役割を果たしていただいております。地域社会発展は女性部の力がなく

ではなりません。今後の発展をお祈りするとともに、ご尽力賜りたいと思います。

### 橋本昌次城県知事



これからは地域間競争の時代になります。それぞれの地域が何を行っていくかで格差が広がっていきます。最近の男性は引込み思案なので、女性のパワーに期待するところ大です。住民が何を欲しているのか知っているのは皆様方女性部です。皆さんの目で身近な形で何をやればいいのか考えていただきたいと思っております。この大会で情報交換、研鑽をし、地域のため今後活躍することを大いに期待します。

### 白田信夫茨城県議会副議長



女性部の皆さんが一堂に会し、講演会、交流会を通じて情報交換されることは、

今後の展開に大きく寄与するものと期待しております。地域活動や生活改善活動など社会全般にわたる地域貢献活動に取り組まれる女性部の果たす役割はますます高まってくると思っております。今後も地域活動のリーダーとしてわが国経済産業発展のため力をいただきますようお願いいたします。

松村祥史参議院議員(全国連顧問)



女性部の皆さんがこの大会で活力を得て、地域に持つて帰って頑張ろうということになれば素晴らしいと思います。国民の皆さんが求めているのは、これからの日本、地域、商工会をどうするんだということだと思います。与野党超えて議論していこうと思っております。

商工会法施行50年を迎え、ここまで日本の地域経済を支えてきたのは、商工会であり、女性部の皆さん方です。これからの50年を支えるのも皆さん方です。皆さんの元気が地域の元気につながります。これからも一緒に頑張っていきましょう。

渡辺猛之参議院議員



商工会女性部の皆さんが、それぞれの地域で自分の商売だけでなく、自分の住むまちを、自分の力で良くしていくことと熱心に活動していただいております。そんなひたむきな女性部の皆さんが笑顔でしっかりと地域活動ができるように、私も皆さんと一緒に頑張っていきます。今大会は、商工会法施行50周年を迎

えた節目の年の大会であります。今後さらなる未来に向けて商工会女性部がますます発展するよう心からお祈り申し上げます。

石澤義文全国連会長後援あいさつ



地域貢献活動・コミュニティ維持活動には、女性部の活躍が欠かせません。地

域活性化、子育て支援といった商工会女性部が先駆けて取り組んできた活動分野は、社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネスに発展し、雇用や経済を拡大していく効果も期待できるとされています。

私は、女性のパワーで、このような活動をさらに進めていくことが、豊かな地域社会と強い日本経済をつくっていくことにつながると確信しております。

ここ茨城での新たな出会いにより、皆さんの結束と連携が生まれ、元気な地域社会と、明るい未来をつくっていくきっかけとなれば、これに勝る喜びはありません。

外山崇行茨城県連会長歓迎あいさつ

女性部全国大会を心より歓迎いたします。科学の拠点、筑波の地で、近未来のテクノロジーに触れられ、女性部員



のパワーを結集することにより、まちの元気を生みだしていただいたいと思っております。

女性部は地域の原動力として欠かせない組織であり、今後も活力あるまちづくりの担い手として、地域のために一層、ご尽力賜りますようお願い申し上げます。

桜井桃茨城県女性連会長開会のことは



科学技術なくして日本は立ち行きません。科学技術が集積するつくばで全国の女性部員が集うことは大変意義深いことです。研修に励んでチャンスをつかんでいただきたいと思います。

主張



最優秀賞



関東ブロック代表  
茨城県つくば市商工会女性部  
高田美知子

山が取り持つ子育て支援

夜光塗料が光る親子揃いのゼッケンに、星座表とお弁当を用意して夜間の

筑波山へいざ出発です。突如、雨が降り出すと同時に、雷が鳴り、樹々に稲妻が走り、落雷で大きな杉の木が真つ二つになりました。子供たちは、悲鳴をあげて大騒ぎ、急いで駅舎の中に逃げ込みました。自然の怖さを目の当たりにしました。

その後、天候が回復し、青空が広がる中を山頂に向かいました。夕闇迫るころ、ライトアップされた「七夕かざり」が、まばゆいばかりにたなびくさまは幻想的で、感嘆の声があがりました。短冊には、「宇宙飛行士になりたい」など、子供たちの夢も書かれています。そのうち、あたり一面が暗くなり、星空観察会の始まりです。子供たちの限らない好奇心は留まることを知らず、星を見つけては講師に尋ねたり、目を輝かせながら真剣に観察している姿に私たちは感動しました。

「夜の筑波山七夕まつり」で、子供に星を見せたいという思いで始まった親子星空観察会も5年目を迎え、年ごとに応募者が多くなり、七夕まつりに来てくださる観光客が増えたことも部員の功績と自負しています。部員のお店には、参加された親子が買い物に訪

れるようになり、新たな顧客開拓にもつながっています。

女性部の活動が鉄道会社を動かし、土、日曜日と行楽シーズンにケーブルカーとロープウエーが夜間運行を行い、スターダストクルージングと名づけられていきます。貴重な宝の山を活用して地域振興の一翼を担うことができたと思っています。



優秀賞（以下、発表順）

### 希望のたまご



中部ブロック代表  
石川県津幡町商工会女性部

西山治美

満月の夜、たくさんの希望のたまごが、ジャズの音色とともに、津幡川のほとり、弘願寺の境内を幽玄に照らしめます。希望のたまご、それは和紙で作ったたまご型のキャンドルホルダーに一人ひとりが思い思いの希望を描き、キャンドルを通して、自分や地域をみつめる時間を大勢で分かち合おう！という音と光のイベントです。町に明るい光を発信できないか、友人と一緒に考え、女性部の協力を得て、2008

年にスタートしました。

商店街の方や学童をはじめ、保育園、高齢者サロンなど様々な場所でたくさんの希望のたまごが生まれます。町のイベント「どまんなかフェスタ」の日、夕方になってキャンドルに火が灯り、800個の希望のたまごが静かに瞬く境内に、ジャズの音色が響きわたり幻想的な空間が創りだされます。

そして今年、もう1つ新たな希望が生まれました。女性部と自閉症成人施設「はぎの郷」とのコラボレーションで生まれた「めでたまご」です。一見、希望のたまごのミニサイズですが、中には手作りクッキー、津幡町のミニ情報が入っています。

10月3日に発売をしたところ、娘さんの結婚式に使いたい、東京へのお土産にしたいと好評です。来年度のお客様の誕生日プレゼントに使用したいと、すでに500個を超える予約注文もいただきました。

これからも、多くの方と一緒に汗をかきながら仲間の輪を広げ、まちを楽しく魅力的にする活動をしていきたいと思えます。「小さな希望」も、それが集まると「大きな力」になることを私たちは信じ、願っています

### しじみに懸けた10年、そして新たな一歩



近畿ブロック代表  
滋賀県瀬田商工会女性部  
扇子美智子

女性部は、歴史ある瀬田しじみを使って特産品開発をしようと苦心しながら、7年前にしじみコロッケを生み出した。私は女性部に入ってからすぐ大津市の農業まつりへの出店に参加しました。開店して1時間半、用意した300個のコロッケが売り切れ、販売は大成功でした。その後、しじみコロッケは、行事やイベントに出店を重ね、地元テレビや新聞などから取材を受けるほどになっていきました。

2年前の秋のことです。卸売市場の20周年記念イベントへ出店したところ、「なにか、酸っぱいで」ということで、販売は中止となりました。原因が分からないまま不安だけが残り、皆の心からしじみコロッケへの情熱が薄らいでいったのです。瀬田女性部にしじみコロッケありと言われるまでの事業でしたが、立ち止まってしまったのです。

そして今年、女性部の特産品事業が

動き出しました。今度はカルシウムや鉄分などのミネラルたっぷりのしじみエキスを使用しました。はったい粉（むぎこがし）、きな粉と砂糖、そこへエキスを練り込み、素朴で味わいのあるあめ菓子を作りました。栄養たっぷりのお菓子としてイベントなどで広めたいと思います。そして、いつの日かしじみコロッケも再開したい。

瀬田しじみと取り組んだ10年は、瀬田商工会女性部の仲間作りでもありました。仲間とともにこれからも地域に根づいた活動を続けたい。その活動を通して、心豊かなふるさとづくりに貢献していきたいと考えます。

### 小さなカーターピーナッツに思いを込めて



中国・四国ブロック代表  
広島県三次広域商工会女性部

山村恵美子

平成16年、備北地区13の女性部が特産品開発に取り組むことになり、甲奴支部も重い腰をあげました。

「よそにないもん言うたら、ジミー・カーター大統領ゆかりのカーターピーナッツかねえ。カーターピーナッツが入ったお菓子を作ったらええかもしれ

んよ」と、皆のアイデアはすぐに決まりました。そして、菓子製造施設を持つ甲奴町農産加工部と連携しました。

選んだのが、黒糖入りカリントウでした。広島県連の支援、ひろしま夢ぶらざの確かなアドバイスをいただき、甘さ、形を改良して、取り組みから半年たった17年3月、販売にこぎ着けました。マスコミでたびたび取り上げていただき、大きな宣伝効果を得ることができました。夢プラザアンテナショップで全国から注文いただけるようになり、現在まで約1万5000袋を販売し、5年経った今でもロングランの売上を維持しています。

21年度、新たな取り組みを始めました。JA、商工会議所、三次広域商工会3者連携の米粉プロジェクトに参加して、米粉餃子を作りました。県産の食材を使い、手作りしと地産地消をセールスポイントにしています。テレビで大きく取り上げていただきました。黒糖入りカーターピーナツツカリントウの開発から始まった私たちのチャレンジ。協働のまちづくりを目指す三次市民として、目の前にあるチャンスを生かし、地域に力を生む女性部でありたいと決意を新たにしています。

基地の町から、いもの町へ



九州ブロック代表  
沖縄県嘉手納町商工会女性部  
とうやま  
當山みゆき

嘉手納町は、甘藷発祥の地です。405年前、町の先達、野国総管により伝来、琉球の人々を飢えから救い、「お助けいも」とも呼ばれていました。

役場の「嘉手納町にしかないおいもを作ろう!」との呼びかけで「野国いも研究会」が結成されました。女性部も80歳になるおばあなど、いも好きの仲間たちです。皆で栽培方法の改善など試行錯誤の末にカロテン系のおいもを作ることに成功、現在の「野国いも」に至りました。やきいもにして販売したところ、甘くて美味しいと長蛇の列ができ、大きな自信となりました。

女性部では保存のきくペースト作りに取り組みました。完成したペーストは、オレンジ色がきれいで甘みが一段と増しました。09年の野国総管祭りに、ソフトクリームにペーストを練り込み、販売したところ、あつというまに1000個が売り切れました。その後、道の駅かでなで「野国いもソフトクリ

ーム」として販売されています。

ペーストは町内でお菓子に加工されたり、フランス料理店のポタージュやデザート、沖縄そば店のいもソバと新しいメニューが次々誕生、この中から今年は「野国いもソフトクリーム」「野国いもソバ」「野国いもぜんざい」が町の特産品として推奨されました。

女性部が野国いもにこだわって地域おこし活動に取り組んだ結果、このよくな素晴らしい成果が得られました。これからも嘉手納町女性部は野国いもにこだわり、強力な実行力をフルに發揮して「基地の町から いもの町へ」を実現していきます。

西木の夜を彩る笑顔と感動の紙風船



東北・北海道ブロック代表  
秋田県仙北市商工会女性部  
浅利久美子

私たちの住む西木地区が、冬の夜わずか5時間だけ人口が10倍に膨れ上がる日があります。巨大な紙風船を上げる「上松木内の紙風船上げ」です。女性部もこのお祭りに参加しています。

幅3m、長さ5.5mの紙風船は「合格祈願」「商売繁盛」などたくさん

願いととも、温かな灯をともし、次々と夜空に舞い上がります。やがて、静かに音もなく、ゆらゆらと真つ暗な夜の闇に吸い込まれていきます。その数は1000個を超え、たとえようのない幻想の世界です。

感動の余韻が残る中、女性部はきのこや山菜のたっぷり入った豚汁の販売を始めます。気温はマイナス10℃。手はかじかみですが、一杯一杯に母ちゃんの愛情と笑顔を込め、冷え切った体を温める最高のご馳走と好評です。

「家族にも食べさせたいから送ってよ」の言葉をきっかけに、春には山菜、秋には栗やきのこの直送と、1年を通じて交流が生まれ、物産館やインターネットを活用した販売も可能となりました。米粉のパンや麺の製造、漬物加工にも取り組み、地域活性化に貢献しているものと自負しています。

恵まれた自然と文化を活用し、夜空に舞い上がる紙風船のようにゆつくりとではありますが、活動の輪を広げることで、地域の活力が生まれると信じ、「上松木内の紙風船上げ」の夜には、愛情いっぱい豚汁で、山里の「最高のおもてなし」を提供し続けていきたいと思っています。